



情報誌

FAR

49 号

事務局：公益社団法人 日本放射線技術学会事務局内

〒600-8107 京都市下京区五条通新町東入東鋸屋町 167 ビューフォート五条烏丸 3F

TEL:075-354-8989. FAX:075-352-2556/http://www.jsrt.or.jp. Email:office@jsrt.or.jp

《ごあいさつ》

16 年目の FAR 会

副会長 藤田 透



2002 年 4 月神戸で産声を上げた「FAR 会」は、今年で 16 年目を迎えました。第 58 回総会の会期中に三宮ターミナルホテルにて開催された第 1 回懇親会は 42 名の参加があり、当時私は学会総務理事をしていたことから参加させていただき、その数年後からは会員として参加させていただいて来ました。今期より川上壽昭氏が第 3 代会長に就任されたことから副会長を命ぜられました。本心は一会員として気楽に参加したかったのですが、任期を務めさせていただきますのでよろしくお願ひします。

FAR 会は約 100 名の会員により構成されており、一時的に 100 名を超えることがあってもそれを 1 年間維持できることは少なく、世話人の方々の悩みの種となっております。入会資格は緩くなっていますので、気楽に入会していただきたく周辺の皆様への勧誘を是非ともお願ひします。FAR 会は、①春秋の学術大会時における懇親会の開催、②情報誌「FAR」の発行が二大事業であり、多くの会員の皆様のご尽力で成り立ってきています。

春には、学術大会開催地近くにある銘店（老舗）での食事会、秋は開催地に詳しい会員のお世話による 1 泊 2 日の趣向を凝らした懇親旅行が企画されます。今春は平野浩志氏のお世話で横浜の歴史ある名店「馬車道 10 番館」において 30 名の参加者を迎えて開催され、定評あるフレンチのコース料理をいただきました。また、今年は特別企画で光格天皇ゆかりの京都「聖護院御殿荘」を舞台に 1 泊の観桜食事会（世話人：清水久子氏・草山泰子氏）も行われました。秋には川上壽昭氏・神澤良明氏のお世話により日本三景でもある宮島「厳島神社」に学会場近くからリパークルーズで行くと聞いており、今から楽しみにしています。以前は酒豪が多く時には手を焼く人もいたのですが、最近は酒量が落ちたのか穏やかな懇親の場となっています。情報誌「FAR」も創立以来、年間 3 号の発刊が続けられています。会員による「ご当地自慢」、会からの情報提供、学会情報等々が毎号の記事となっています。会員の中には文筆家もおられ魅力的な文章や写真に感心させられます。間もなく 50 号を迎えるということで、記念号の発刊が編集委員会によって準備していただいています。乞うご期待です！

FAR 会員の半数は、これまで春秋の懇親会には参加されていないようです。懐かしい顔に再会できたり、情報交換で楽しい時間が過ごせますので、是非一度ご参加ください。また、FAR 会誌に近況や随筆をお寄せくださいますようお願いいたします。



内 容

1. ごあいさつ 副会長 藤田 透
2. 秋季大会へのお誘い 大会長 上田克彦
3. 会員動向
4. 会からのお知らせ
5. 特集 私のふらり旅 「夏」 川越市 森 克彦
6. JSRT 情報
7. 連載《ご当地自慢》「祈りの道 果てしなく」 大津市 雄川恭行
8. 編集の小窓

《第45回秋季学術大会へのお誘い》

医療安全を科学する 学術発表から論文へ

大会長 上田克彦



第45回秋季学術大会開催にあたって、諸先輩方のご指導のもと隅田実行委員長をはじめ全員で、準備を進めております。演題応募におきましては、予想を大幅に上回る529件の応募をいただきましたことに驚いています。このため、研究発表の編成は、採択された505の演題について、口述研究発表が約60%、展示ポスターによる発表が約40%となりました。

さて、第45回秋季学術大会のテーマ「医療安全を科学する」の主旨について、説明させていただきます。技術学会員の多くは医療施設に勤務する診療放射線技師であり、診療の場面で遭遇する疑問や問題を解決するため、様々な分野で多くの研究論文を投稿しています。現在、医療現場で求められている大きな課題のひとつは医療安全です。多くの放射線技術研究には、医療における安全に関連した内容を含んでいますが、これまで以上に多くの論文を創出するため、医療安全を新しい研究領域と考え本大会のテーマとしました。したがってテーマ内の、「科学する」は、「論文にする」と読み替えていただきたいと思います。第45回秋季学術大会をきっかけに、医療安全に関する取組がSeedsとなる研究論文が多数創出されることを期待しています。

日本放射線技術学会としては、総会学術大会も500題を超える研究発表実績があります。したがって、今年度は総会と秋季を合わせて1,000件を超える研究発表がなされるわけです。これらの研究発表の中から10%の研究を論文として完成していただくだけでも100編の論文が投稿されますので、少しでも多くの方に論文作成に取り組んでいただきたいと思います。大会長としては医療安全に関する研究論文投稿が飛躍的に増加することを期待しているところです。

特別講演は「生体システムに基づく自動車の開発 ～人間中心のクルマづくり～」と題してマツダ（株）西川一男先生と「放射線診療における Artificial Intelligence (AI) の潮流～基礎から最前線、近未来まで～」と題して岐阜大学大学院藤田広志先生に講師を依頼しています。また、シンポジウムでは他関係学会とも協力した内容を盛り込んでおります。

10月21日(土)にはThe 3rd International Conference on Radiological Science and Technology (ICRST)を同時開催いたします。こちらは小倉代表理事が大会長、私が実行委員長として開催いたします。主に交流のある海外の学術団体の皆様や国内の留学生の参加が予定されています。秋季学術大会の式典の後、Taiwan Society of Radiological Technologists (TWSRT) 交流締結式も予定しており、技術学会の国際活動も活発になってきています。

最後に、心配事として大会開催期間とプロ野球セリーグのクライマックスシリーズファイナルステージが重なってしまったことがあります。広島カープ優勝で街中が大騒ぎになる可能性があります、その時は珍しい体験ということでご容赦ください。

実行委員をはじめ関係者一同、皆さまの来場をお待ちしております。

**第45回日本放射線技術学会
秋季学術大会**

—医療安全を科学する—

会期 2017年 10月19日(木)～21日(土)

会場 広島国際会議場

大会長 上田 克彦(京都大学医学部附属病院)

実行委員長 隅田 博臣(広島大学病院)

主催／公益社団法人 日本放射線技術学会 実行委員会・運営事務局 株式会社日本旅行 中四国コンベンショングループ
〒700-0008 岡山県岡山市中区東町5-1-14 岡山日本国際会議場15F
TEL 086-255-5579 FAX 086-255-7882 E-mail jprts-office@nissansha.co.jp
共催／一般社団法人 日本ラジオロジー協会 <http://www.jprt.or.jp/gmeeting/shuki45/>

~~~~~

## 《会員動向》

・会員数（平成 29 年 7 月 31 日現在）：94 名（内：名誉会員 8 名）

~~~~~

《会からのお知らせ》

☆☆☆☆ 第 50 号記念誌：原稿募集のご案内 ☆☆☆☆

情報誌も平成 13 年 9 月 20 日に、創刊号を発刊して以来、16 年余りが経過し、平成 30 年 1 月 15 日（発刊予定）に第 50 号発刊の節目を迎えますので、第 50 号記念誌への原稿を募集いたします。会員の皆様には、是非とも FAR 会情報誌への思い出・希望・ご自身の近況等を纏めて戴き下記の形式にてご応募下さるようお願い申し上げます。

記

テーマ「自由におつけください」

原稿枚数 3 枚（400 字原稿用紙：総字数 1,200 字以内）です。

お願い事項

ワードにて MS 明朝、フォント 10.5 ポイント、用紙 A4（1 行 50 字、1 ページ、46 行に設定してください）にて作成してください。なお、テーマ及び氏名は、総文字数に含みません。

掲載写真はできる限りご遠慮ください。執筆内容により、必要な場合は（デジタルで、JPG 或は PDF 等）、1～2 枚以内としてください。写真 1 枚が 100 文字程度必要となりますので、掲載枚数から執筆文字数を減じてください。（ご協力願います）

*原稿作成では、一太郎（.jtd）、テキスト（.txt）形式でも結構です。

*原稿〆切日 平成 29 年 11 月 20 日（月）必着

送付場所：E-Mail: mokamokawh@gmail.com / mo-katsu@jt4.so-net.ne.jp

（上記、どちらでも結構です）

〒350-0064

川越市末広町 1-11-22

森 克彦 宛

~~~~~

## 《JSRT 情報》

『第 45 回秋季学術大会』大会テーマ：-医療安全を科学する-

大会長：上田克彦（京都大学医学部附属病院）

会 期：平成 29 年 10 月 19 日（木）～21 日（土）

会 場：広島国際会議場

『第 74 回総会学術大会』大会テーマ：Innovative sciences and humanism in Radiology

夢のような創造科学と人にやさしい放射線医学

大会長：錦 成郎（公益財団法人天理よろづ相談所病院）

会 期：平成 30 年 4 月 12 日（木）～15 日（日）

会 場：パシフィコ横浜会議センター他

~~~~~

《特 集》

私のふらり旅「夏」

川越市 森 克彦



今年は、7 月 19 日に梅雨明けとなり、筆者の関東地方では、毎日猛暑が続き、荒川水系の取水制限が実施され、7 月 5 日の 10%から 7 月 21 日には 20% となり植物への水やりも少なめとなっており、ます。（注：台風 5 号のお陰でしょうか、8 月 7 日に



取水制限は解除となりました。) 暑さ凌ぎにとふらりと自宅を出てあてもないまま 200m 程、北に足を向けると養寿院あり、涼を求めて寺院の本堂に進むと川越の地名の由来となっている河越太郎重頼の墓として伝えられている五輪塔等が有ります。

「河越氏は、坂東平八氏の一つ秩父氏の出で、重頼の祖父重隆の時に川越に進出し、河越氏を名乗った。重頼の妻は比企禅尼の娘で、その関係で、はやくから、伊豆の流人であった源頼朝を助け、平家追討、鎌倉幕府の樹立に力をつくした。のち、頼朝・義経不和になるや、重頼は、その娘が義経の正妻たるの、故をもって、誅殺され、所領は没収された。現在、本堂南側に重頼の墓として伝えられる五輪塔があり、かたわらに明治の元勲右大臣三条実美公の篆額、文学博士、重野安綱撰文の顕彰碑が立っている。」

(養寿院：ホームページより転載)

五輪塔は周りの墓地より、少し高台にあり大木に覆われて涼しさと静寂に包まれております。墓前にたたずみ手を合わせ黙禱していると涼風を感じつつ、古に思いをはせながら真夏の一時を満喫しました。因みに、当院の北側は観光名所の菓子屋横丁が連なり毎日、小中学生の課外授業及び一般の観光客による喧騒のため静寂も時として破れんばかりの情景です。筆者は、心新たに、養寿院を下山して約 30 分のふらり旅（機会があったら四季折々に訪ねたいと念じつつ）を謳歌しました。



《連載》ご当地自慢

…祈りの道 果てしなく…

大津市 雄川恭行



FAR 会誌も回を重ねて 49 号を迎えようとしています。多くの投稿者中でも遠山坦彦氏は本誌第 21 号をもって 12 回シリーズを完結された「四国八十八ヶ所霊場巡り」は圧巻だった。それは霊場巡りの実体験をベースに、豊富な知見を織り込んだ格調高い紀行文であった。これは私などにはちょっと真似ができない。流石、学会誌の元編集委員長だと感銘を受けたことであった。このシリーズの継続中に熊野古道が世界

遺産化したので「あるいは彼の第 2 シリーズが」と期待して以来 6 年が過ぎ去りました。このままでは折角の“世界遺産”が「FAR 会誌」から取り残される？と言う口惜しさから、敢えて恥ずかし気もなく熊野・高野世界遺産の超圧縮版に挑戦して郷里自慢とさせていただくことになった次第です。

さて、図 1 はその昔からの熊野三山への参詣道の概念図ですが、都を発して西回りだと、三十石船で淀川沿いに浪速へ、そして、①海岸沿いに紀州を南下する紀伊路 ②奈良・吉野川・紀の川水系を辿る道 ③高野街道で山岳地帯を経て本宮に至るコース ④十津川水系の十津川街道 ⑤険しい山岳地帯コースの大峰路 ⑥北山川水系を通る北山路 ⑦伊勢から熊野に通じる大辺路等多様なコースが参詣道となっていたようである。奈良時代から熊野詣での記録が遺されていると言われる熊野三山とは

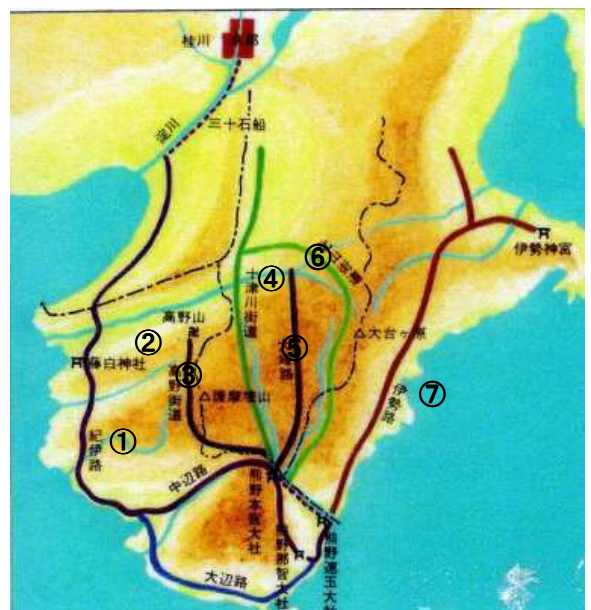


図 1 熊野参詣道

i)熊野本宮大社 ii)熊野速玉大社 iii)熊野那智大社の総称である。

やがて時代が平安時代中期から鎌倉時代に至る熊野三山への信仰は険しい山岳地帯の巨岩・大滝・大木等
で織りなす大自然への畏怖心と渡来した仏教、熊野修験道などが混然として成り立って熊野信仰となってい



図2 根本大塔



図3 壇上伽藍

た。熊野詣ではその長大な距離に
おいて、道の険しさにおいて、ま
さにケタ外れに厳しい難行苦行で
あった。だが古い記録によると延
喜7年(907年)宇多法皇から始ま
った熊野行幸は時代を重ねて弘安
4年(1281年)の亀山上皇までに
100回を越えていたとある。さら
に「行は1000近くの人馬を従え1
日16石の食糧を要した」と言われ
る。



図4 中辺路古道



図5 大門坂

平安時代から鎌倉時代に亘り、この難行苦行が頻繁に行われて
いたことは驚異と言う外はない。

一方、熊野古道の北西端に位置する高野山では、弘法大師が
根本道場として根本大塔(図2)において開祖され、奥の院と並
び2大聖地として壇上伽藍(図3)を設け、仏教の經典を全国に
発信する礎とした。このことは、自然信仰の熊野信仰とは対象
的であることに注目したい。しかし、熊野三山と高野山は今も
信仰の2大聖地として崇められている。



図6 本宮大社殿

さて、高野山から熊野古道を南下し本宮大社に通じる道を小辺路と称されていますが、本宮で接続する中辺路コース(図4)は、田辺市市街方面から富田川を遡行する山岳地帯にあり、川沿いに分水嶺の逢坂峠から近露を通り、十津川温泉から本宮に至る山岳コースです。大辺路は主として海岸沿いであり、最後は 大門坂(図5)を登り那智大社に至ります。ここでいよいよ熊野三山の画像をまとめてご覧いただきます。

まず、熊野本宮大社(図6)ですが、始祖は第10代崇神天皇とも言われ、熊野三所権現などと言われ、歴代の上皇、法皇、女院の行幸啓は百数十度に及んだと記るされていて、長年月に亘り隆盛を極めていた。が、明治22年の風水害で社殿が壊滅した。再建は跡地を離れ、現在の社殿は山上に移され、日本一の大鳥居(図7)のみ熊野川沿いに超然と聳えています。

速玉大社(図8)は、本宮大社から30kmほど南の新宮市にあり、社殿は平地に祀られていて朱色で明るい印象です。

熊野那智大社(図9)は、那智勝浦町にあり、青岸渡寺に祀られている社殿は那智の大滝(図10)を展望する絶好の位置にあります。那智大社は観光である勝浦温泉と隣接しているため、参拝する人は熊野三山の中では最多と言われています。

さて、この辺で信仰心を離れ、温泉自慢と参ります。近畿地方の中では温泉地は和歌山県が最多と思われます。にも拘らず、火山は何処にもないのは不思議でならない。紀伊半島全体から概観すると、海岸に面した温泉も田辺、白浜、串本、勝浦と枚挙

に及ぶが、何れも海浜温泉である。(図11 勝浦温泉忘帰洞)しかし、龍神温泉、湯の峰、川湯(図12)、わたらせ温泉、近露、えびね温泉など、山岳地でも枚挙に及ぶのであります。敢えて申せば南に向かうほど温泉密度が高いのかも知れません。



図7 日本一の大鳥居



図8 速玉大社



図9 青岸渡寺の3重の塔



図10 那智大滝



図 11 勝浦温泉忘帰洞

この和歌山県でただ一人偉人を挙げるなら“南方熊楠(1867～1941)”(図 13)を挙げたい。他府県人は意外に思われるだろうが和歌山県人なら納得の人が多。彼の業績を知ると生物学者、環境に対する先見性、行動力、多国語を解し、文化人類学者など非凡な学者として和歌山県の誇りと感じている人の何と多いことか。

最後は味自慢にまいります。断然美味且つお手頃価格(ちょっと高いかも)クエ料理(図 14)の専門店で召し上がれ。

みかんと梅干は和歌山の定番のものなので敢えて省略でご御免なすって。では、お粗末様でした。

終りに投稿に熱く協力していただいた和歌山市の友人、西岡平八さんご夫妻に深甚の感謝を捧げます。



図 12 川湯温泉千人風呂



図 13 南方熊楠



図 14 絶品の味クエ料理

《編集の小窓》

異常天候とともに FAR 会情報誌第 49 号をお届けいたします。会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか？また、異常気象による天候異変で被害を被られ、お亡くなりになった方のご冥福を心からお祈りします。また被災された方に心からお見舞い申し上げます。今年は梅雨入りした途端に猛暑となり、梅雨明けしたらしいと発表が有った途端に戻り梅雨と言って良いくらいの雨空が続きました。この時期の気象用語によると梅

雨前線ではなく立秋が過ぎているので秋雨前線となるようです。停滞した台風により豪雨も停滞し同じ地域に莫大な雨量となりました。今後も気象には十分気をつけていきたいものです。

私ごとで申し訳ありませんが、今年の9月の誕生日で満70歳を迎えます。70歳を古希というのは唐の詩人、杜甫の詩・曲江（きょっこう）の「酒債は尋常行く処に有り 人生七十古来稀なり」（酒代のつけは私が普通行く所には、どこにでもある。（しかし）七十年生きる人は古くから稀である）に由来するとのこと。古来希なりで古希。勢い希なりで稀勢の里となるのでしょうか。ちなみに今の私にはつけはありませんが飲む場所はいくらでも存在します。必要な方はご一報下さい。還暦は数えの61歳であります。古希は数えの70歳のことだそうです。そのことから私の古希のお祝いは昨年のはずでした。数え年で行うなぞそんなこととは知りませんでした。古希より1年長生き出来たことを喜ぶべきかですね。古希は長寿の祝いとされており、お祝いの色は、還暦は赤でしたが古希は喜寿のお祝いと同じく、紫色となります。長寿の祝いには、他に、還暦（かんれき）満60歳、喜寿（きじゅ）数え77歳、傘寿（さんじゅ）数え80歳、盤寿（ばんじゅ）数え81歳、米寿（べいじゅ）数え88歳、卒寿（そつじゅ）数え90歳、白寿（はくじゅ）数え99歳、百寿（ひゃくじゅ）数え100歳などが知られています。清の乾隆帝は「古稀天子」と自ら称し印判などにも古希の字を用いたそうです。中国史上古希を迎えた天子は乾隆帝の他は梁の武帝、南宋の高宗などわずしかおらず本当に70歳は古来希なことがわかります。

上田克彦大会長による秋季学術大会大成功を祈りつつ、秋の懇親旅行の広島で会員諸氏とお会い出来ることを今から楽しみにしています。

石井 勉、記



FAR 情報誌 No.49（非売品）

発行日 平成29年9月15日
発行者 川上壽昭
編集委員会 森 克彦（委員長）
石井 勉 江島光弘
橋本廣信
山田和美（顧問）
森：連絡先 Tel&Fax. 049-225-2619
Email: mokamokawh@gmail.com

